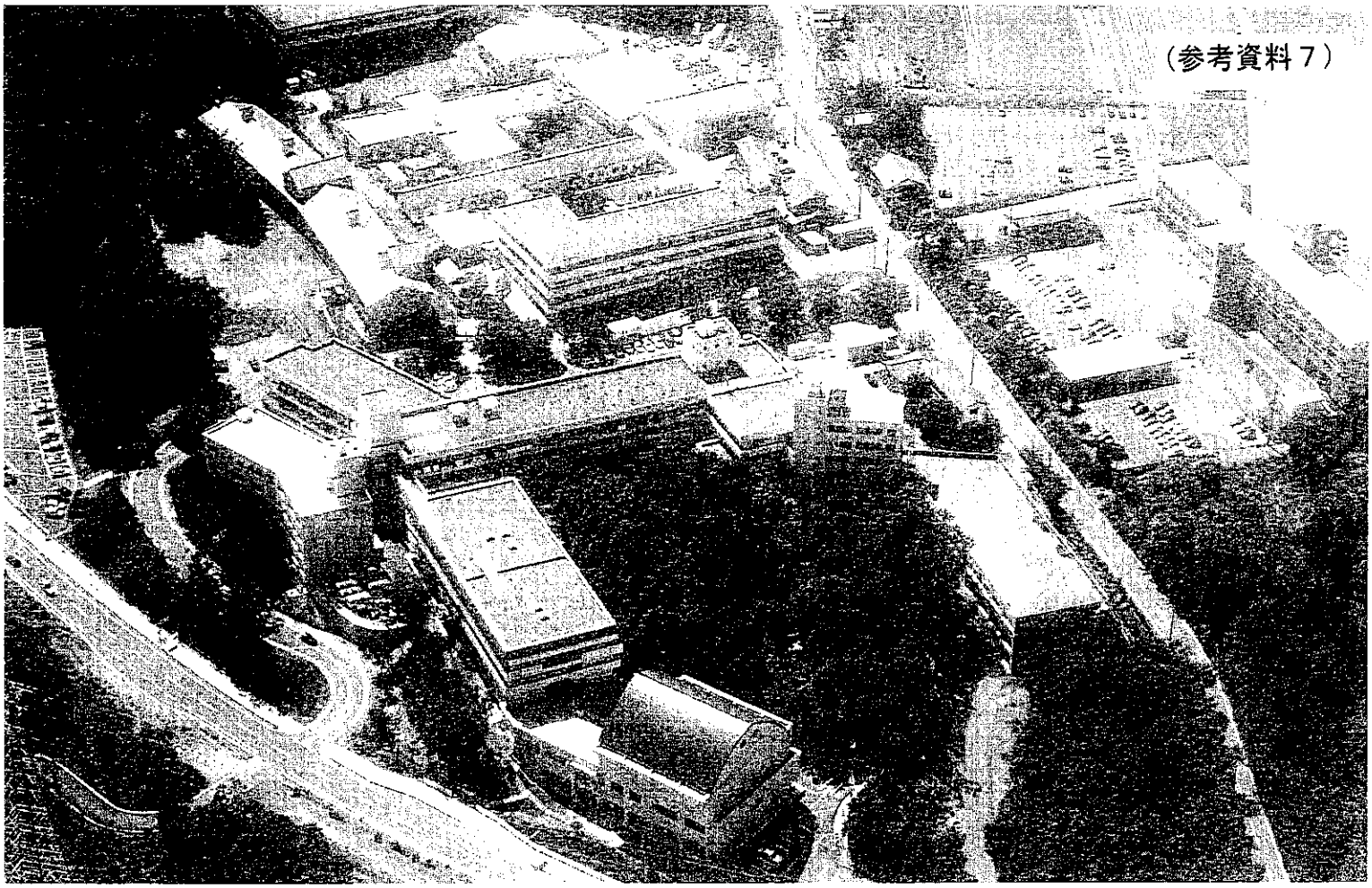
（参考資料７）



▲長岡医療と福祉の里内にある高齢者総合ケアセンターこぶし園本体部分（新潟県長岡市）

高齢者ケアシステム

構築のための問題

小山剛●高齢者総合ケアセンター【こぶし園】園長

私たちは昭和57年に特別養護老人ホームを開設したのですが、その当時から施設入所しか選択肢のない高齢者サービスのあり方に疑問を持っていました。それは、利用される高齢者自身が「自宅での生活を続けたい」と願い、その家族も同居生活することを望みながらも、唯一人の手による苛酷な介護の限界に、ある

介護の意識チェックリスト

以下の設問に答えてみてください。どうして包括的ケアシステムが必要なのか理解できると思います。

- あなたの家は車いすのまま出入りできますか？
- あなたの家のトイレは車いすのまま使えますか？
- あなたの家のお風呂は車いすのまま入れますか？
- あなたの家には年中無休で24時間働き続ける無給の介護者がいますか？
- あなたの家のまわりの道路には歩道がありますか？
- あなたの家の近くに車いす用のトイレが整備されていますか？
- あなたの家の近くに車いすが利用できる公共の乗り物がありますか？
- あなたの町の訪問介護（ホームヘルパー）は24時間365日稼動していますか？
- あなたの町の通所介護（デイサービス）は365日早朝から夕方まで（介護者の就労中という意味）利用できますか？
- あなたの町の短期入所はいつでもどんな時でも受け入れてくれますか？
- あなたの町の訪問看護はいざというとき夜中でも来てくれますか？
- あなたの町の配食サービスは朝昼晩　日・365日ありますか？

あなたは自宅から離れて施設に入所したいのですか？

いは共働きのために、泣く泣く避難小屋的性格の施設入所措置を受けるという現状があったからです。

一方で在宅生活を支えるサービスであるはずのホームヘルプは週に数回程度の訪問が普通でしたし、デイサービスにおいても同様のレベルでしたから、連続している介護生活の役に立ったとは言い難い状況にありました。現在であれば週に1回しか提供されない入浴や週に2回しか提供されない介護、加えて土・日・祭日に提供されることがない介護などあるはずがないことは常識だと思いますが、当時（あるいは現在も）は利用者への介護ではなく、介護している家族のお手伝いをしていたということではないでしょうか。

これらの中で地域社会のさまざまなニーズに直面する度に力量不足を痛感し、この時代でも通用するサービスとして、とりあえずは生活のすべてを抱えることのできるショートステイサービスを拡充することに全力をあげてきたのです。そして現在ようやく表のような24時間365日を原則とした多機能サービスを提供できるようになりました。

包括的支援システムとは

私たちが高齢者総合ケアセンターを名乗り、本格的に包括的ケアシステムの構築を目指し始めたのは、平成2年にショートステイ専用施設「フレッシュ・イン・こぶし」（50床）を設置した頃からでしたが、最も影響を受けたものは、翌年に体験したミシガン大学セミナー時に垣間見た包括システムの持つ入院期間の短縮という事実と在宅支援体制の厚み、そしてサンフランシスコのオンロックで始まっていたPACE（The program of all-inclusive care for the elderly）の取り組みでした。

PACEとは、移民制限を受けた中国人社会を中心として、施設や病院に入所・入院をせずにできるだけ在宅生活を延長するためのシステムであり、同時にコストの削減にも効果をあげている取り組みという紹介でしたが、このことは私たちが施設開設当初から抱いていた疑問を解消する意味において画期的な言葉でした。以来高齢者包括的支援システムの構築を目標にサービスを整備してきたのです。

確かに利用者ニーズに沿うようさまざまなサービスを整備していきますと、たとえば1人の利用者に対してショートステイ、デイサービス、ホームヘルプ、訪問看護、配食サービスと在宅生活に必要な支援を行うことができます。また、ケアプランも建前ではなく本当に必要なパーツを組み合わせることができますし、利用者の情報も一元化できるメリットを持つのです。そして何よりも、このことにより利用者自身の望む在宅生活の延長が現実のものとなりますし、同居家族に対しても過酷な介護負担を強いることもなくなり、結果として、従来であれば施設入所申請のレベルであっても在宅での生活を継続している方が増えてきたのです。

もちろん、さまざまなサービスの中には投資コストを回収できない事業もありますが、私たちは社会福祉法人ですから、一般にいわれるところの顧客満足（customer satisfaction）に加えて、本来の使命（mission）である地域社会の満足（community satisfaction）を保障する義務があると思っていますし、介護保険の導入によって営利法人やNPOと同じ事業を実施しながらも税金負担がないことの意味がここ

表 高齢者総合ケアセンターこぶしの事業

高齢者総合ケアセンターこぶし園	
★介護老人福祉施設	
特別養護老人ホームこぶし園	（定員100名）
★痴呆対応型共同生活介護	
グループホーム千手	（定員6名）
グループホーム川西	（定員9名　準備中）
★短期入所生活介護	
フレッシュ・イン・こぶし	（定員50名）
レスピット・イン・こぶし	（定員30名）
★通所介護（午前7：30～午後6：30　365日）	
デイサービスセンターけさじろ	（定員30名）
デイサービスセンターこぶし	（定員40名）
サポートセンター関原	（定員30名　準備中）
サテライトデイサービス宮本	（定員15名）
サテライトデイサービス関原	（定員15名）
サテライトデイサービス上除	（定員15名）
サテライトデイサービス深沢	（定員15名）
サテライトデイサービス希望ヶ丘	（定員15名）
サテライトデイサービスお手てつないで	（定員15名）
生きがい型デイサービス	（6か所）
★訪問介護（24時間　365日）	
こぶし24時間ケアサービスステーション	
サポートセンター関原（準備中）	
★訪問看護（24時間　365日）	
こぶし訪問看護ステーション	
こぶし第2訪問看護ステーション	
★居宅介護支援事業所	
グループホーム千手	
デイサービスセンターけさじろ	
デイサービスセンターこぶし	
こぶし24時間ケアサービスステーション	
こぶし訪問看護ステーション	
こぶし第2訪問看護ステーション	
在宅介護支援センター西長岡	
在宅介護支援センターこぶし	
ケアプランセンター川西（準備中）	
★その他	
こぶし配食サービスステーション（3食365日）	
在宅介護支援センター西長岡（24時間365日）	
在宅介護支援センターこぶし（24時間365日）	
サービスハウス山田町	

にあるのだと考えています。

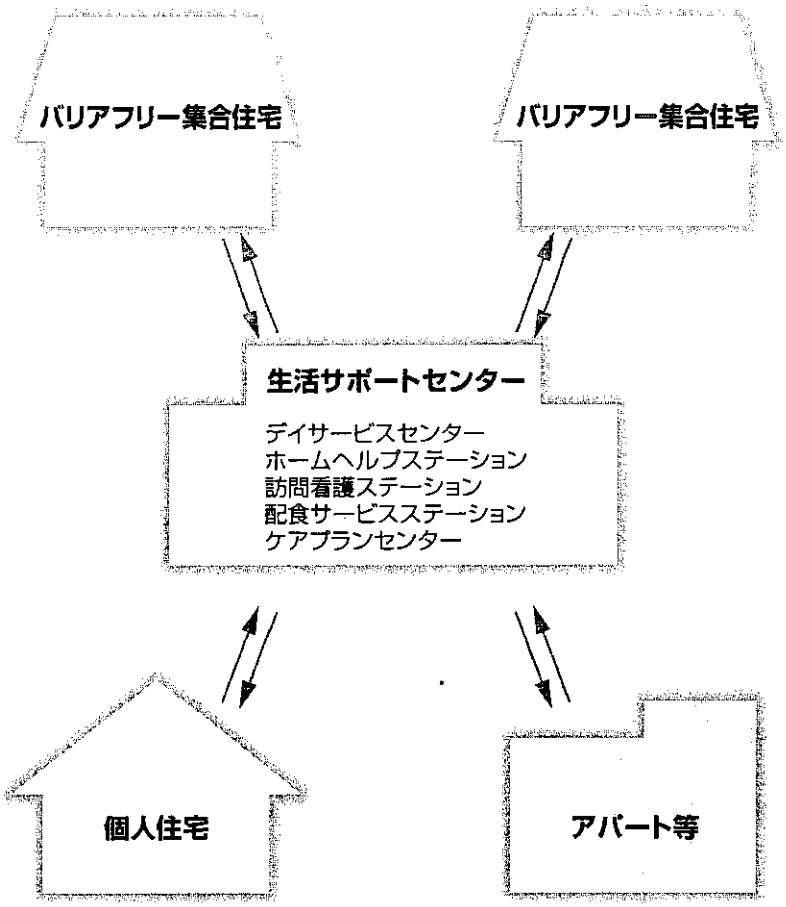
新たな暮らし方の提言

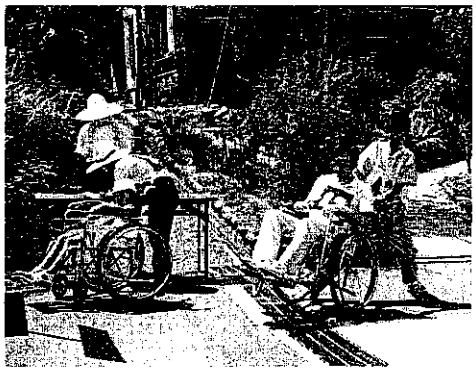
前記しましたような在宅生活を支えられるシステムがある程度確立してきた中で、残されている課題はバリアフリー環境です。

一般的に和様式の建築はいったん身体に障害が生ずると、ほとんどの場所が障害となってしまうことはご承知の通りで、これを解消するためには多額の投資を必要としますから、個人の家を改修することは現実的には困難が多いものです。ここでは紙面の関係で充分な説明はできませんが、図のように地域に点在する公民館と同程度のエリアに、数人が生活できるバリアフリー住宅(昔の長屋のようなもの)を建築し、そのバリアフリー住宅数軒に対して1か所の包括的ケアを提供する生活サポートセンターを配置すれば、住み慣れた地域社会で家族や友人に囲まれた「介護生活」を維持することができるものと確信し、現在その実現に向け検討を進めています。

終わりに、「施設の社会化」とか「脱!施設的な生活」ではなく、もうわが国においても「施設入所不要!」の暮らし方を選択できる、また、そうしなければならない時代が到来したのではないでしょうか。「私は施設を利用したくないけど、他人のあなたならかまわない」という自己矛盾の世界はお終いにしたいと思います。

図 コミュニティケアシステム




▲地域社会を育てるための「親子車いすラリー」

包括的ケアシステムを共に行う住民パワーのレベルアップ手法の例

▲講師の説明に熱心に聞き入る受講者達

▲地域社会との協同を目的に、毎月実施している地域巡回型の介護教室